幼小接続

架け橋プログラムのはじめの一歩　～　接続主任として手掛けた学校体制づくり

魚沼市立小出小学校
青柳　直也（H17）

1998 年頃から「小 1 プロブレム」が社会課題として認知され始め、「就学前と小学校の段差をどう埋めるか」という接続の必要性が強く意識されるようになった。それから約 25 年、2008 年の学習指導要領改訂で「スタートカリキュラム」が登場したものの、この段差はなかなか埋まらずにいた。

そのような中、令和４年度(2022 年)から 19 の自治体でモデル事業をスタートさせた幼保小の架け橋プログラム。5 歳児（年長）から小学 1 年生の終わりまでの 2 年間を「架け橋期」と定義し、単なる適応指導ではなく「幼児期の学びを生かした主体的・対話的で深い学びへの接続」を目指す現在の形へと進化した。

私は接続主任として、当校に通う子どもたちが楽しく伸び伸びと小学校生活を送ることができることを願い、令和５年末に架け橋プログラムやスタートカリキュラムの取組を立案した。本発表は令和６年から取り組んだ結果について（発表内容は令和７年・８年が中心）報告するものである。

本実践の最大の目玉は「すきすきタイム」である。これは私が新潟大学幼稚園での勤務中に、新潟大学附属長岡小学校と連携して作り出したスタートカリキュラムの取組を、公立校でも実現可能なものとしてアレンジしたものである。

本発表が県内の学校の取組の一助になることを願っている。